

## 書くこと 指導のポイント

(その4)

### ～ 「まとまりのある英文」を書く活動の充実 ④ ～

「まとまりのある英文」を書く活動の充実③(その3)では、(1) How “どう書くか”について意識させた実践例を紹介しました。今回は、(2) What “何を書くか”について焦点を当てた実践例を紹介します。

「まとまりのある英文」を書く際に、生徒が同時進行しなければならない3点

- (1) 文章構成等を考えること (How “どう書くか”)
- (2) 書く内容を考えること (What “何を書くか”)
- (3) 文章を正しく書くこと (文法、語彙など)

+ 書く意欲

どんな内容にしたらいいかな？

書き方は分かったけど・・・さて、何を書いたらいいかな？

?



特に「まとまりのある英文」を書く際、生徒にとっては、「何を書くか」が、なかなか決まらなかったり、思いつかなかったりということがあります。

A、B中学校の実践例を見てみましょう。

#### What 書く内容を考えさせる指導実践

##### ○書く内容を具体的に列挙させる (A中学校)

A中学校の「CAN-DOリスト」では、「まとまりのある英文」を書くことについて、次の様な学習到達目標を設定しています。

1学年	2学年	3学年
○与えられたトピックについて、事前に書くべき内容を考えたものを基に3文で書くことができる。	○与えられたトピックについて、事前に考えたものを基に、4文で書くことができる。	○与えられたトピックについて、即興で、5文で書くことができる。

1学年時には「事前に書くべき内容を考えたものを基に」書かせようとしています。

例えば、自己紹介文を書く授業においては、メインの書く活動の前に、下の表に必要事項を記入させ（日本語可）、それを基に英文を書かせています。2学年時は、事前に記入させる項目の自由度が高くなるようにしています。



自己紹介をしよう！



紹介文を作成する前に、次の表を完成させよう。

1 名前	田中 武志
2 出身（町）	猪苗代町
3 好きなスポーツ、音楽、食べ物など	ロック
4 ↑ もう少しきわしく	マルーン5 のファン
5 (自由に)	父もマルーン5 のファン

2年時は、内容の自由度が高くなる。

教科書にも似た活動が掲載されているので、同様の実践をしている中学校も多いと思います。

さらに、A中学校では、定期テストで、同様のテスト問題を出題しています。

#### 〔A中学校定期テスト問題〕 1学期期末テスト問題（一部）

下の表を完成させ、その表を基に英語で自己紹介文を書きなさい。表には日本語で記入してかまいません。

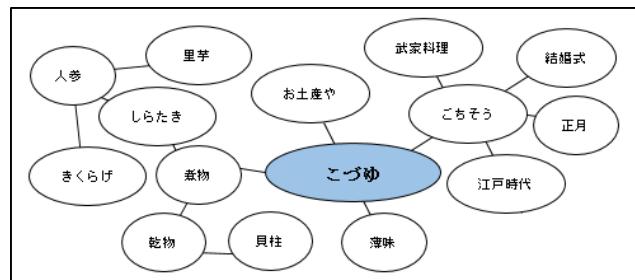
名前	
好きなこと	
↑ もう少しくわしく	
苦手なこと	
↑ もう少しくわしく	

授業で書かせるだけでは、本当に書く力が付いたのかは分かりません。A中学校のように、定期テストでも授業と似た形で出題し、「まとまりのある英文」を書く力を評価することも大切なことです。

#### ○\*関連図を活用する (B中学校)

\*ここでは下図のようなものを関連図とします。

B中学校では、関連図を作成させ、書く内容を想起させる実践を行いました。右の例は、「会津若松市を紹介する」活動で、郷土料理のこづゆを紹介する班がつくった関連図です。これをもとに個々で英文を作成しました。



#### ○いくつかの英語での質問を準備する (B中学校)

B中学校では、作成する英文によっては、右のような英語での質問を準備しています。それぞれの質問の答えが、英文の骨組みとなり、実態に応じ、1~2文付け加えて「まとまりのある英文」を完成させるようにしています。

1 What do you want to be in the future?

2 What do you want to do as a/an [ ]?

3 What do you do to be a/an [ ]?

これらは、一例ですので、各校の実態に応じ工夫してほしいと思います。

その時に、大切なのは、A中学校の3年生の「CAN-DOLIST」にあるように、「与えられたトピックに対し、即興で、書くことができる。」力を育成することです。それに向け、段階的に工夫して取り組むことが求められます。